

酒々井町 郷土研究会報

第63号

平成4年1月1日発行
酒々井町郷土研究会
編集部

謹んで新年の
お祝詞を申し上げます

平成4年元旦



郷土研究会会長

会田秀雄

平成四年の新春をことほぎ、
謹んで新年のご挨拶を申し上げ
ます。

旧年中は会員各位の積極的な
ご活動、ご協力によりまして行
事をお無事に進行することが出来
ました。厚く御礼申し上げます。
最近は国内外の情勢が目まぐ
るしく変化し、時間は加速度的
に速く経つていく感じがいたし
ます。昔から一年の計は元旦に

あります。
平成四年の新春をことほぎ、
謹んで新年のご挨拶を申し上げ
ます。

ありと申しますが、年の始めに
たてた計画がこれから成績に
関係してまいります。
昨年は春の七草粥に始まって
都内外及び県内の見学会を数回、
又、信州方面一泊見学会等特に
十一月の酒々井町生涯学習フェ
スティバル参加の拓本文化展
は、皆さんに大変お世話頂きました。
今年も新しい抱負と希望をもつ
ます。

新年度では、より積極的に
活動してまいります。
新年度では、より積極的に
活動してまいります。
新年度では、より積極的に
活動してまいります。

新年おめでとうございます。
お正月を迎える年、一年の
遠ざを感じます。今年は平和な
よい年でありますよう祈ります。
世界の状勢の目まぐるしい変化
には驚くばかりです。一方、酒
々井町郷土研究会は数々の行事
が行われ、有意義に平成三年度
をすごして来ました。十一月の
生涯学習フェスティバル参加
の文化展の展示品は、酒々井町
の絵図をはじめ拓本の数々が、
昔を今に繋ぎとさせ、その工拓
本作りの手ほどき実習ができ得
がたい経験でした。皆様のご協
力のもと役員の努力が実を結ん
だものと感動しております。

マ一年の計画をたて、皆さんと
共に和を広げ一層魅力ある会に
致したいと念願しております。
最後に会員の方々の益々のご
繁榮をお祈り申し上げると共に、
本年もよろしくお願ひいたします。
最後に会員の方々の益々のご
繁榮をお祈り申し上げると共に、
本年もよろしくお願ひいたしま
す。

最後に会員の方々の益々のご
繁榮をお祈り申し上げると共に、
本年もよろしくお願ひいたしま
す。

年頭にあたり

田村直子

今年も各役員へ熱心な企画調
査を重ねて、意義深い行事を沢
山考えております。郷土研究会
も満足して十六年です。人口二
万に足りないこの酒々井町の中
で三百人をこえる会に成長して
おります。皆様のもつともっと
知りたい郷土のあれこれを考え
努力してまいりますので、今年
も沢山の方のご参加を頂き、会
の発展のため依り一層のお力添
えいただきますようお願い申し
上げます。

年頭にあたり皆様のご健康と

幸多き年でありますよう祈念申
し上げます。

「本佐倉」は佐倉の中心地

酒々井歴史余話(二)

高橋健一

下総佐倉藩稻葉氏の家臣磯部昌吉は、「絵景概録」(正徳五年)の中で「旧佐倉」について、「今之府城に對して旧佐倉といふ」と述べています。今の府城とは、時に稻葉氏が城主であった佐倉城、旧佐倉とは本佐倉をいふたものです。これは何を輿辦としたのか不明ですが、これ以後に成立した筆者未詳の『成田の道の記』(寛政十年)にみえる「元佐倉」、中路定俊の『成田名所図会』(安政五年)にみえる「元佐倉町」の表記にしておかりです。

そして、本佐倉については、従来から、江戸時代初期に、二井利勝が鹿島山に佐倉城を築いて以後、城下町としての「佐倉」中心地が西に移動して、ここに「元の佐倉」の意味で本佐倉と呼称されるようになつたといわれています。何が旧佐倉・元佐倉を意識させるのでしょうか。

やはり佐倉城の存在が大きいのでしょう。しかし、事実はこれに反し、今から四〇一年前の天正十八年には、すでに本佐倉の地名はありました。

本佐倉城下の浜宿(佐倉市大佐倉)に、本佐倉城主千葉勝胤が開基したと伝えられる、勝胤寺(曹洞宗)があります。そして一通の古文書が伝来します。本佐倉地名解明の事がかりは、実はこの古文書の中にみられるのです。

天正十八年に相模小田原の後北条氏と豊臣秀吉は、一大合戦を繰り広げますが、豊臣氏の軍勢は千葉邦胤死き後、後北条氏の領国となつていた両総地域にまで進攻しました。そして在地からの要請に応じて、寺社を中心とした各地に、軍勢が乱効狼籍や放火、また地下人百姓らの非分の儀に申し懲ることを禁止して、これに違反すれば嚴刑に處す旨の一禁制」を発します。勝胤寺には「禁制」の添えられ、現在も大佐倉に残る「大櫻」

状が残されています。これが前述した一遍の古文書です。三月二日付のこの添状には、豊臣氏の家臣である浅野長吉と木村一が名を連ねて署判しており、「当所江御朱印取次候」とあるので、かつては御朱印・禁制もあつたことが判明します。そして正十八年には、すでに本佐倉の地名はありました。

印東庄本桜十貳(寺)

之内七ヶ寺

がみえます。「本桜」本佐倉が、天正十八年には、地名として確実に存在していましたことを物語るものです。伝承ではなく正本の文書によってこれが確認されることは貴重といえるでしょう。本桜「本佐倉は「本佐倉」であつて、「元佐倉」ではなかつたのです。

さて、それではこの「本」には、どのような意味が秘められているのでしょうか。これは「佐倉の中心地」という意味で理解したいと考えます。なお、中世の文書に多出する「作倉」は、いうまでもなく「佐倉」の表記の一種ですが、これはむしろ佐倉に先行する表記とみられます。そしてサクラ(作倉・佐倉・桜)とは、サク(谷間)ナラ(接尾語)と考えら



どう小字かう位置關係で譲ると、それは大佐倉駅周辺の谷間地形をいつたものと考えられます。ここは、い

うなれば、佐倉地名の発祥地といえるでしょう。おそらくは地名發生当初の佐倉は、ごく狭い範囲の呼称であったこととあります。それが戦国時代に、千歳民によつて本佐倉城が取り立てられて以後、佐倉地名は城を含めた風切

端にまちがり、そして天正十三年に千

葉邦胤が家臣に殺害されるという事件の後、千葉氏の旧領国は、家督を子の氏直に譲つて「御隱居様」と呼ばれていった北条氏政の「佐倉領」として編成されますが、その過程の中で、佐倉地名の広がりが想定されます。ここに「佐倉の中心地」としての本佐倉が意味を持つものといえましょう。

等々力渓谷と横浜方面見学会

園部 善一

十一月二十二日、バス二台を連ね公民館を出発した。曇り空で気温は低くかたが寒い程ではなく行楽日和りだった。

初めに淨真寺。ここは九品山唯在念佛院淨真寺といい、芝増上寺の別院になっている。東急大井町線九品仏駅から二分の所にある。

まず総門に向かう。すぐ傍に鷺草園があり、中に入ったが時季が悪く花は無かった。境内に戾り闇魔堂に入つた。子供の頃に見た怖い闇魔様を久しごとに見る。大きな仁王門を潛り本堂を右に見て正面に三仏堂がある。左方の下品堂に入り僧侶より詳しい説明を聞いた。この堂には三体の大きな阿弥陀如来像が安置され、よく見ると真ん中の如来様は両手共親指と人差指とで輪を作り、右の如来様は親指と中指とで、左の如来様は親指と薬指とで輪を作っていた。どんな意味があるのか聞きたかった。下品堂の右に上品堂、又その右に中品堂があり、中を覗くとやはり三体ずつの阿弥陀如来像がある。それで九品仏と謂われている。

次いで全員本堂に上り、軽妙洒脱な話を聞き疲れも忘れる。バスに乗り、間もなく等々力渓谷に着いた。ここは多摩川の支

流谷沢川に沿い、二十三区内に残された唯一の渓谷である。急坂を下るとすぐ雌雄二条の不動の瀧へ出る。思ったより貧弱だったが都

内では止むを得ない。川のサイドを飛び石伝いに行くと崖の中腹に、奈良時代の横穴がある。近在の有力者のお墓であろう。人骨が三体あつたという。少し上ると等々力不動がある。ここは真言宗智山派で本尊の不動明王は役の行者おもて小角の作と伝えられている。

昼食はバスの中取り、次は雪印乳業横浜チーズ工場である。ビデオを見て工場に入る。工場はパイプと装置ばかりなので、新

鮮な暖かいチーズをたっぷり試食でき、チーズの旨さを再認識した。

バスで横浜ベイブリッジを渡る。中区

文化展「絵と文字でみる

酒々井町」をみて

H・Y

郷土研の生涯学習 フェスティバル参加。絵と文字で見る酒々井町一絵図と拓本

五日からの三日間公

民館会議室で、開かれると

興味を持って訪問ま

した。

酒々井町にある中

世の頃建立された板

碑を中心として墓碑

や道標に刻まれた

文字が、あざやかに

拓本され並んでいま

が定かでなくかつて

いのりでしょうに、

何故も拓本をとられ

何が刻まれていのり

か定かでなくかつて

風前にさらされて、永年

した。それらは永年

拓本され並んでいま

が定かでなくかつて

いのりでしょうに、

何故も拓本をとられ

何が刻まれていのり

か定かでなくかつて

いのりでしょうに、

何故も拓本をとられ

何が刻まれていのり

か定かでなくかつて

いのりでしょうに、

何故も拓本をとられ

何が刻まれていのり

か定かでなくかつて

いのりでしょうに、

何故も拓本をとられ

何が刻まれていのり

か定かでなくかつて

いのりでしょうに、

何故も拓本をとられ

見学会会計報告

11月22日(金) 等々力・横浜方面 94名	
収入	3,500円×94名+1,420円=330,130
支出	302,502
昼食代	109,601
バス代 (2名)	150,000
消費税	4,500
有料道路	17,300
ドライブ代	10,000
九品仏回向料	5,000
等々力不動回向料	3,000
コピー及び通信費	3,101
収入	330,130 - 支出 302,502 = 27,628
差引残高	27,628円
見学会積立金に繰入れ	

郷土研究会誌 10月～12月		
月 日	内 容	参加人員
10/8	名勝探訪（深川方面）雨天のため中止	
10/12	史談会「酒々井町の年中行事」雨天候のため中止	
11/9	史談会「酒々井町の年中行事」文化屋のため会場使用不可中止	
11/15～17	生涯学習フェスティバル文化展観察会と見学会	251名
11/22	県外見学会、等々力・横浜方面	94名
11/27	午前 見学会委員会	9名
	午後 会報編集委員会	8名
12/12	名勝探訪 湘南方面	46名
12/6	運営委員会	19名
14/13	史談会「酒々井町の年中行事」を競む会	21名
12/19	会報校正	6名
12/25	会報発送	15名

拓本の取り方を教えて下さったこと、バラエティーに富んだ素晴らしい催しと思いました。これからも機会ある毎に歴史についていきたいと思います。

郷土研行事案内

平成4年1月~3月

	1月	2月	3月
史談会	休ミ	8日(土) 公民館会議室 「酒々井町の年中行事」を読む会 午後1時30分	14日(土) 公民館会議室 「酒々井町の年中行事」を読む会 午後1時30分
名勝探訪	16日(木) 京成酒々井駅8:26出発 名勝探訪 東京都府	25日(火) 野草の会 七草粥を食べる会	11日(水) 京成酒々井駅8:26出発 名勝探訪 国会議事堂
野草の会	会費 申込受付 受付時間 場所 申込人數 申込期限 各自申し込み下さい。(雨天実施)	500円 1月25日 12時30分 公民館講堂 80名(予約 (申込は総会当日です)	会費 申込受付 受付時間 場所 申込人數 申込期限 各自申し込み下さい。(雨天実施)

1月25日(土)
午後12時30分受付
午後1時30分開会
中央公民館講堂
平成4年度会費受付
年会費(1月~12月)1,000円

当日会費受付と同時に「七草粥を食べる会」の会費及び国会議事堂見学申込の受付をします。

議事

- 平成3年度事業報告及び決算報告
 - 平成3年度会計監査報告
 - 平成3年度事業及び決算の承認について
 - 平成4年度事業計画案及び予算案について
 - 其の他について
- ⑥ご多忙の折恐縮に存じますが、多数のご出席をお願い致します。

◎ 東京都府見学

1/6 (木)

名勝探訪 1/6 週3/1(水)

明けましてお目出とうございます。平成4年最初の名勝探訪、先ずはまだお正月気分の漂う明治神宮へ。遅ればせの初詣ですが、新しい年の平安と郷土研のますますの発展を祈念しましよう。お昼は若者の街原宿で思い切り若返ります。オールドボーカイズ・ガーリズの来襲で原宿中の時計が逆回転するかも。

午後からは皆様のご要望に答えるべく戦闘苦闘をして、ようやく見学予約が採れた東京都府の見学です。色々の話題を集めた新しい都府舎内をあなたの目で実見して下さい。(参加申し込み要、雨天決行)

◎ 国会議事堂見学 1/6(水)

日本の国の政治の中心で、国民にとつて何處よりも身近かであるはずなのに、見る機会のなかなか無い、今回はそんな国会議事堂を隔から隔まで見学します。議員食堂でいただく昼食は議員の味がするとか、大いに楽しみです。

議事堂庭園西側の憲政記念館は国

議の擁護と発展に尽力した尾崎行雄を顕彰記念しています。十分ほど歩くと山王日枝神社。江戸城鎮守として徳川家よりの厚い被護を受け、「山王祭」は江戸最大のお祭りでした。(参加申し込み要、雨天決行)

憲政の擁護と発展に尽力した尾崎行雄を顕彰記念しています。十分ほど歩くと山王日枝神社。江戸城鎮守として徳川家よりの厚い被護を受け、「山王祭」は江戸最大のお祭りでした。(参加申し込み要、雨天決行)

あとがき
お願いします

名勝探訪の申し込みについて
お忙しい折、誠に申訳ございませんが、本人直接の申し込みのみ受け付けますのでご理解の程、よろしくお願いいたします。

あとがき
お願いします

明けましておめでとうございます。昨年は生涯学習フェスティバル文化展に初参加して、相京晴次さんの永年のご努力の賜の拓本の数々を拝見出来て大変嬉しうございました。見学会も毎回多數の方の参加により盛会に終り何よりでした。唯、私達の指導者の一人青木喜作氏を失った事が非常に残念で心よりご冥福をお祈りいたします。

今年も又、色々計画しますので皆様よろしくお願いいたします。

